

「排水の徹底」、「適期に確実な防除」、「適切な畦間(うねま)かん水」で  
収量・品質を高めましょう！

**1. 病害虫防除** ～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

○紫斑病予防や害虫防除のため、2回の基本防除は適期に確実に行うとともに、カメムシ類、  
チョウ目幼虫等は発生状況に応じて適期に防除しましょう。

防除体系	防除時期の目安	対象病害虫	薬剤名 【液剤体系】	10a 当たり 散布量	薬剤名 【粉剤体系】	10a 当たり 散布量
基本 (1回目)	8月上中旬 (開花期～若莢期)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	プランダム乳剤25(4,000倍) (開花期～収穫7日前まで)	150ℓ	トライトレボン粉剤 DL(収穫14日前まで)	4kg
			カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで)			
基本 (2回目)	8月中下旬 (1回目の10～14日後)	紫斑病 カメムシ類	アミスタートレボンSE (1,000倍) (収穫14日前まで)	150ℓ	Zボルドートレボン粉剤 DL(収穫14日前まで)	4kg
随時	7月下旬～8月上旬	ウコンノメイガ (ハマキムシ)	プレバソフフロアブル5 (4,000倍) (収穫7日前まで)	150ℓ	—	
	8月下旬～9月上旬	マメシクイガ				
随時	8月下旬～9月上旬	フタスジヒメハムシ (カメムシ類、アブラムシ類、マメシクイガ)	カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで)	150ℓ	スタークル粉剤DL (収穫7日前まで)	3kg
随時	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類 マメシクイガ	トレボン乳剤(1,000倍) (収穫14日前まで)	150ℓ	—	

農薬の散布は、使用基準を必ず守り、風速・風向きに注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

**2. 畦間かん水** ～開花期から9月上旬頃までの畦間かん水により干ばつ回避～

- 開花期(7月下旬)から40日間は、大豆が最も水を必要とする時期です。
- 水不足は莢数や収量の減少を招き莢先熟(青立ち)やしわ粒の発生を助長することから、3日以上晴天日が続く場合は、土壌の乾きに応じて短時間で畦間かん水を行いましょう。
- かん水は、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかり止め、速やかに排水してください。
- 9月上旬までは、土壌の乾き具合に応じて適宜かん水をしましょう。

**畦間かん水**

～開花期以降は水不足にしない～

**【畦間かん水の効果】**

- ・根粒の活性を維持
- ・稔実莢数、百粒重の確保
- ・莢先熟(青立ち)の発生防止
- ・しわ粒の発生軽減

梅雨明け後、暑い日が続いたら、積極的に畦間かん水を行いましょう！



うら面に続く

### 3. 雑草防除

#### 【難防除雑草の発生に注意】

大豆ほ場への侵入・まん延を防ぐため、こまめに見回り、種子ができる前に除草しましょう。

(※抜き取った場合はそのまま放置せず、ほ場外で適切に処理しましょう。)

除草方法は各地区営農経済センターにご相談ください。

イヌホオズキ↓



マルバルコウ↑

○除草剤を使用する場合は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。

○畦間・株間処理は、吊り下げノズルが必要です。薬剤が大豆に直接かからないよう注意して散布してください。薬剤が大豆に付着すると葉が黄化する等の薬害が発生します。

薬剤名	対象雑草	10a 当たり散布量	使用方法	使用時期	使用回数
ポルトフロアブル	1年生イネ科雑草 (スズメカビラを除く)	薬量 200~300ml (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 または全面散布	イネ科雑草 3~10 葉期 ただし、収穫 30 日前まで	1 回
大豆バサグラン 液剤	1年生雑草 (イネ科雑草を除く)	薬量 300~500ml (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 ( <u>畦間処理</u> )	雑草生育初期~6 葉期まで ただし収穫 45 日前まで	1 回
ロックス	1年生雑草	薬量 100~200g (水 70~150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 ( <u>畦間・株間処理</u> )	本葉 3 葉期以降 雑草生育期 (雑草草丈 15cm 以下) ただし、収穫 30 日前まで	1 回
バスタ液剤	1年生雑草	薬量 300~500ml (水 100~150ℓ で希釈)	雑草茎葉散布 ( <u>畦間・株間処理</u> )	本葉 5 葉期以降 雑草生育期 ただし、収穫 28 日前まで	3 回

#### 【難防除雑草（帰化雑草等）のほ場へのまん延防止対策】

難防除雑草が発生しているほ場は、結実前に抜き取り、または有効な除草剤を使用して対処するとともに、これ以上雑草がまん延しないよう、以下の点に留意して作業を行いましょう。

- ① 刈り払う場合は再生防止のために地際から行う（雑草は、ほ場外で処分する）
- ② 種子が結実してしまった場合、収穫後のすき込みは実施しない（地表面に落下した種子をそのまま放置し、発芽能力を低下させる）
- ③ 難防除雑草が発生しているほ場の作業は、可能な限り最後に行う（トラクター、コンバイン等で種子を移動させないため）
- ④ 機械の清掃を徹底する
- ⑤ 粗選別時のゴミは、ほ場外で適切に処分する

#### ※培土作業について

培土作業については、単作大豆を中心に順調に進んでいます。

品質・収量の確保とあわせて、雑草の発生を抑制するため、排水溝を点検・補修し、ほ場の停滞水の排水に努めるとともに、2回目培土未実施の生産者におかれましては、**晴れ間をみて、速やかに培土を実施しましょう。**

農作業中の熱中症対策とあわせて、安全な作業の実施に努めましょう。

大豆情報第5号は、9月下旬の発行予定です。